

平成 30 年度
エコオフィス実行計画実績結果

2019 年 5 月

観 音 寺 市

■ 本報告書の位置づけ

観音寺市では、地球温暖化対策の推進に関する法律第 21 条第 1 項に基づき地方公共団体に策定が義務付けられている計画を「観音寺市エコオフィス実行計画」として、2009 年 4 月に「第 1 次観音寺市エコオフィス実行計画」を策定し、地球温暖化対策に取り組んでいます。

2018 年 3 月より、新たに「第 3 次観音寺市エコオフィス実行計画（以下、「本実行計画」という。）」を策定し、国の「地球温暖化対策計画」に掲げる削減目標等に準じ、2013 年度を基準年度として 2030 年度までに 7,254 ton-CO₂、率にして 37.9%削減する高い目標を掲げました。

本報告書は、地球温暖化対策の推進に関する法律第 21 条第 10 項に基づき、本実行計画に基づく措置及び施策の実施の状況を明らかにするために毎年度作成し、公表しているものです。

本報告書では、2018 年度の実施状況について報告します。

第 3 次観音寺市エコオフィス実行計画の概要

対象範囲	市のすべての事務事業（直接管理施設及び指定管理施設）
計画期間	2018 年度から 2022 年度（5 年間）
基準年度	2013 年度
対象とする温室効果ガス	二酸化炭素（CO ₂ ） メタン（CH ₄ ） 一酸化二窒素（N ₂ O） ハイドロフルオロカーボン類（HFC）
削減目標	2022 年度までに 2013 年度比 20.1%削減

■ 温室効果ガスの排出状況について

本実行計画における温室効果ガスの総排出量は以下のとおりです。

本実行計画における温室効果ガス総排出量の状況

（排出源別排出量）

項目	2013 年度 （基準年）	2018 年度	基準年対比
	ton-CO ₂	ton-CO ₂	%
エネルギー起源 CO ₂	ガソリン	237	▲33.0
	灯油	985	▲12.3
	軽油	629	13.9
	A 重油	725	▲2.6
	LPG	180	49.0
	電気	8,566	6,325
エネルギー起源 CO ₂ 以外（※ 1）	364	289	▲20.8
温室効果ガス総排出量	11,686	9,327	▲20.2

※ 1：「エネルギー起源 CO₂ 以外」とは、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボンを含みます。

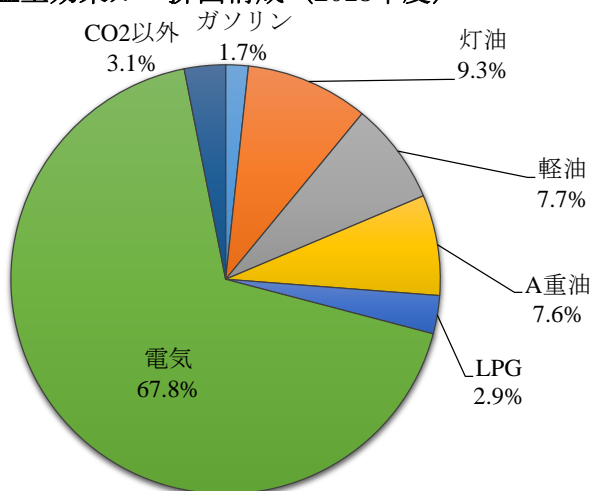
※集計は端数処理の関係で一致しないことがあります。

(種類別排出量)

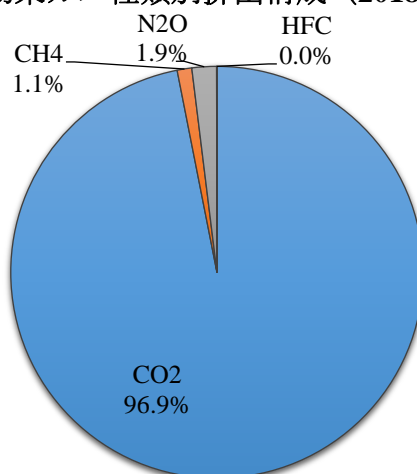
温室効果ガスの種類	2013年度 (基準年)	2018年度	基準年対比
	ton-CO ₂	ton-CO ₂	%
CO ₂	11,322	9,039	▲20.2
CH ₄	147	107	▲27.2
N ₂ O	217	179	▲17.1
HFC	1	2	137.0
温室効果ガス総排出量	11,686	9,327	▲20.2

※集計は端数処理の関係で一致しないことがあります。

温室効果ガス排出構成 (2018年度)



温室効果ガス種類別排出構成 (2018年度)



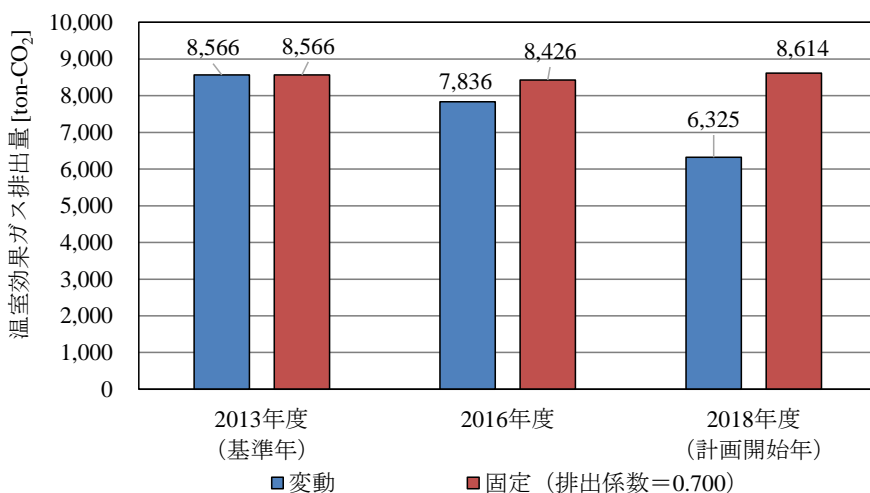
2018年度における温室効果ガスの総排出量は約 9,327 ton-CO₂ となり、2013年度を基準年度として約 2,359 ton-CO₂、率にして 20.2%削減しました。

本市における 2018 年度の温室効果ガスの排出状況は、電気・燃料使用に伴うものが 96.9 %を占めており、主にエネルギー消費に伴い排出されています。2018 年度の主な削減要因は、電気事業者の電力排出係数の改善（排出係数：2013 年度（0.700）、2018 年度（0.514））により、電気使用に伴う温室効果ガス排出量が低下したものと考えられます。

● 電気

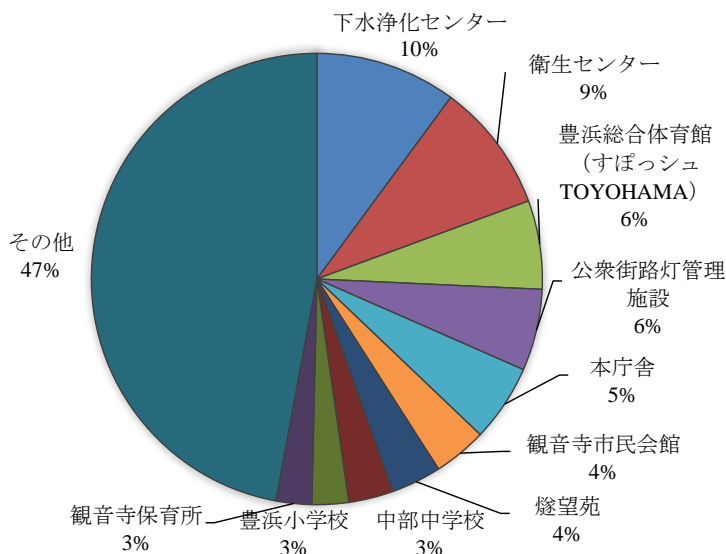
- 2018 年度における温室効果ガスの排出量は、2013 年度（基準年度）に比べて約 2,241 ton-CO₂ 削減（26.2%削減）
- しかし、電気使用による温室効果ガス排出量を 2013 年度の排出係数（0.700）で計算した場合、電気使用量は 2013 年度と比べて 0.6%増加

電気使用に伴う排出量の推移



※「変動」とは、環境省が毎年公表する電気事業者の電力排出係数を用いて各年度の温室効果ガスの排出量を算定した値です。「固定」は、2013年度の電力排出係数を用いて各年度の温室効果ガスの排出量を算定した値であり、排出量が電気使用量と比例関係となるためエコオフィス活動の進捗状況を把握することができます。

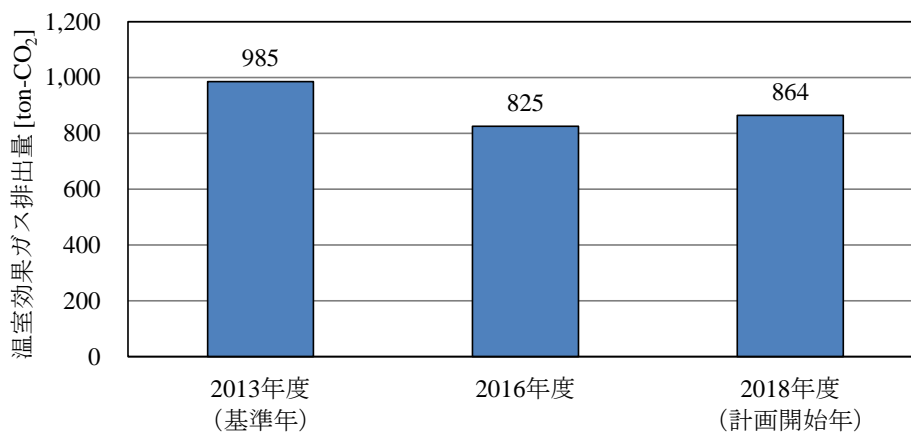
施設ごとの電気使用に伴う排出量（2018年度）



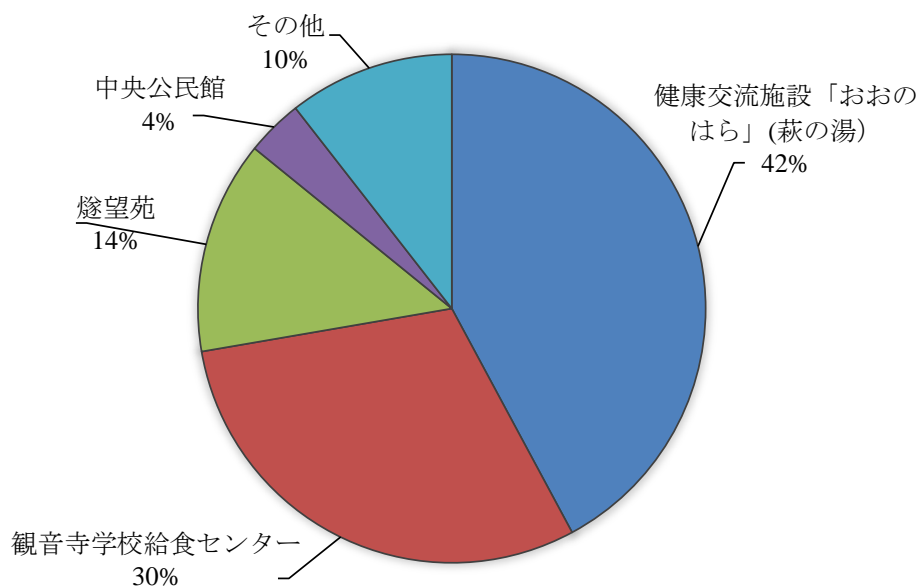
- 灯油

- 2018年度における温室効果ガスの排出量は、2013年度（基準年度）に比べて約 121 ton-CO₂削減（12.3%削減）
- 灯油は主に給湯、空調、暖房器具に使用されており、健康交流施設「おおのはら」（萩の湯）や観音寺学校給食センターの燃料使用量の削減が主な削減要因

灯油使用に伴う排出量の推移



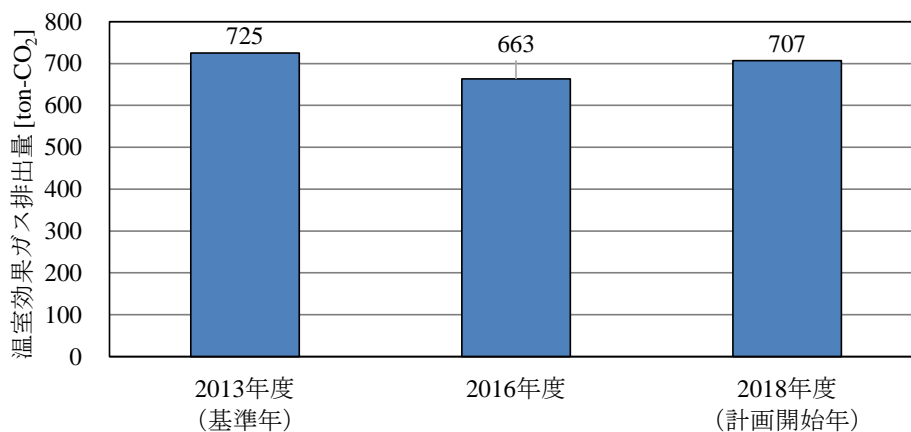
施設ごとの灯油使用に伴う排出量（2018年度）



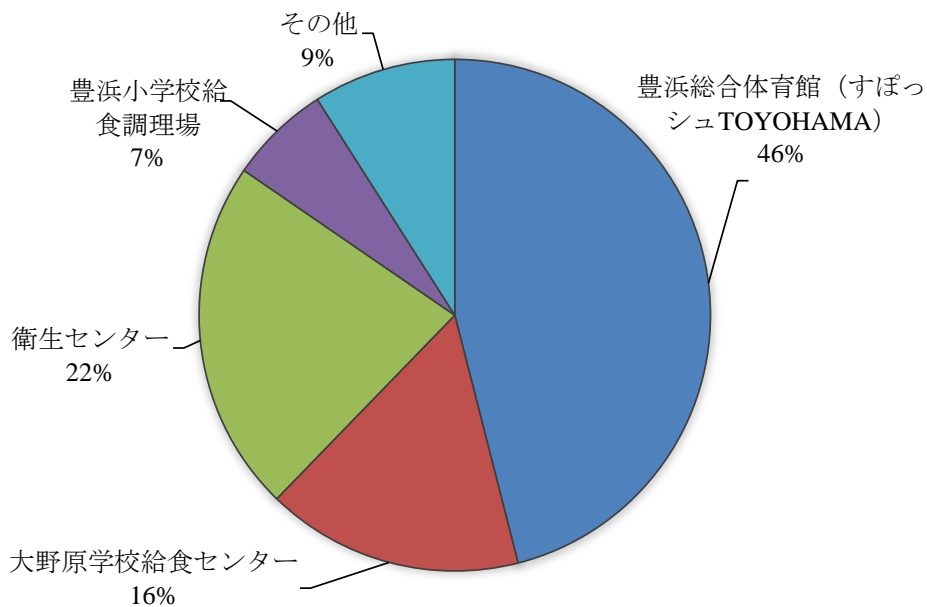
- A 重油

- 2018 年度における温室効果ガスの排出量は、2013 年度（基準年度）に比べて約 19 ton-CO₂削減（2.6%削減）
- A 重油は主にボイラ設備の燃料や焼却の補助燃料に使用されており、本庁舎や豊浜支所の空調設備の燃料転換が主な削減要因

A重油使用に伴う排出量の推移



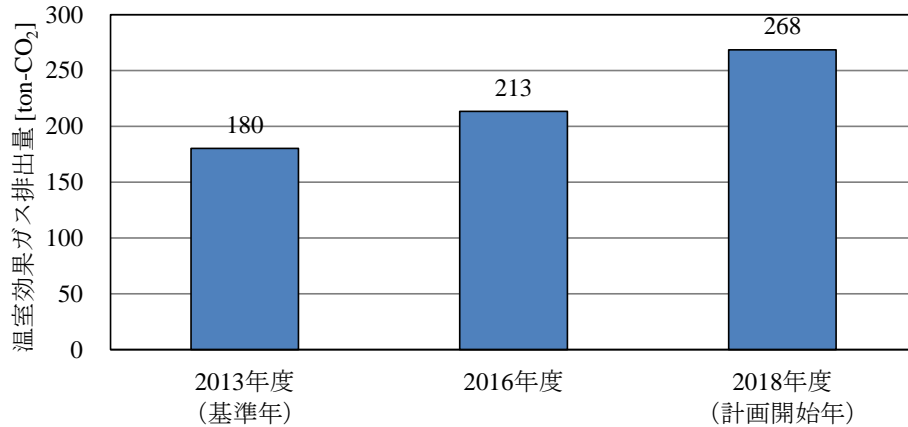
施設ごとのA重油使用に伴う排出量（2018年度）



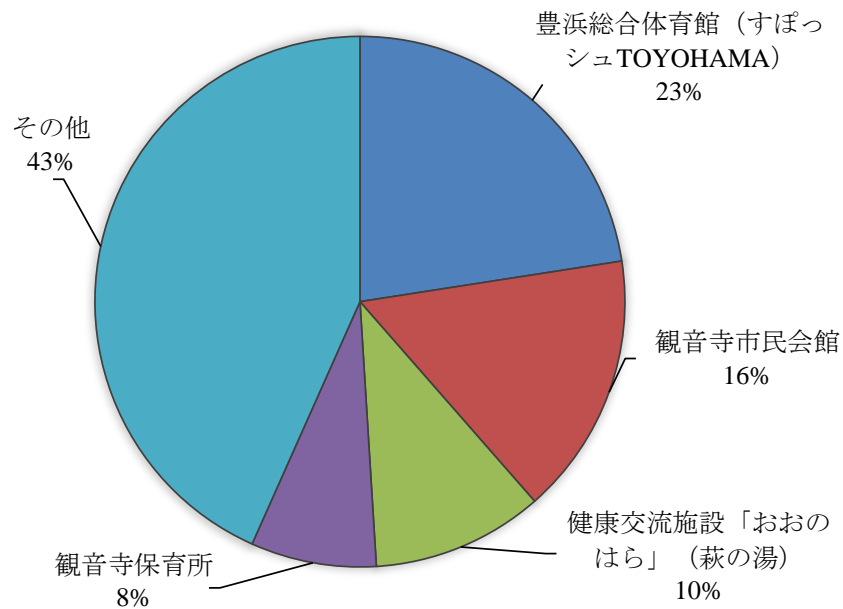
● LPG

- 2018 年度における温室効果ガスの排出量は、2013 年度（基準年度）に比べて約 88 ton-CO₂ 増加（49.0%増加）
- LPG は主に空調、給湯設備に使用されており、本庁舎や市民会館の空調設備が LPG に燃料転換されたことによる燃料使用量の増加が主な増加要因

LPG使用に伴う排出量の推移



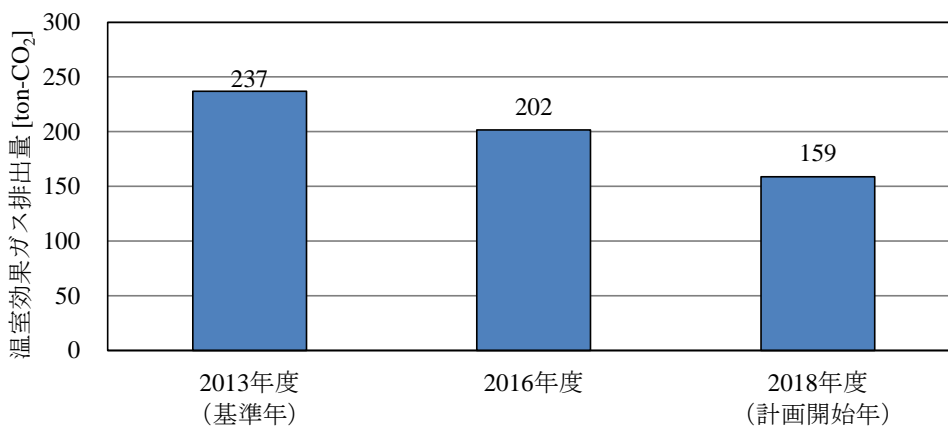
施設ごとのLPG使用に伴う排出量（2018年度）



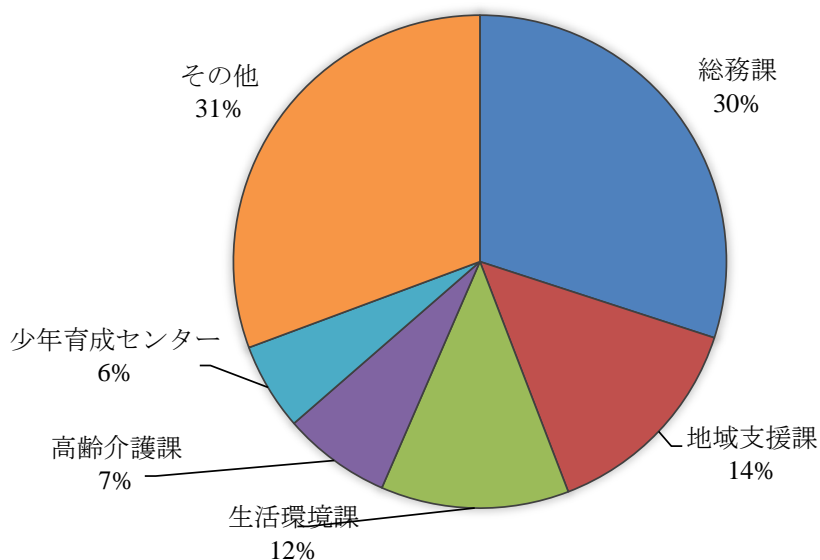
● ガソリン

- 2018 年度における温室効果ガスの排出量は、2013 年度（基準年度）に比べて約 78 ton-CO₂削減（33.0%削減）
- ガソリンは主に公用車の燃料に使用されており、公用車の保有台数の増加に伴う燃料使用量の増加が主な増加要因

ガソリン使用に伴う排出量の推移



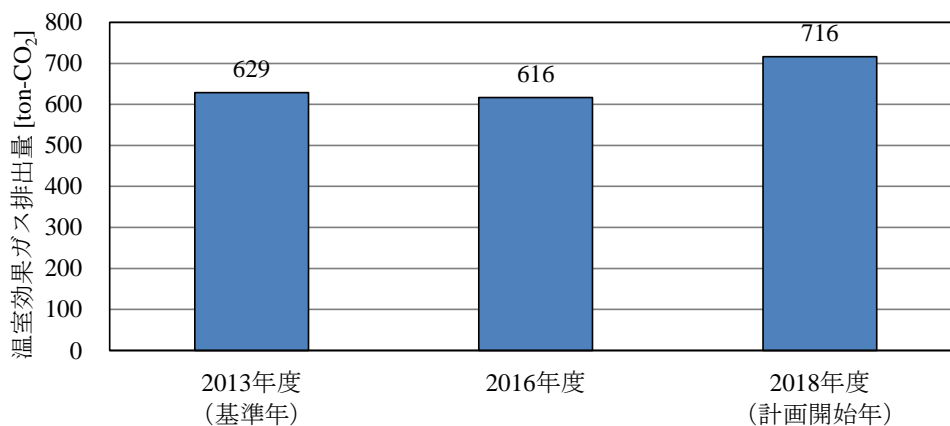
所管課ごとのガソリン使用に伴う排出量（2018年度）



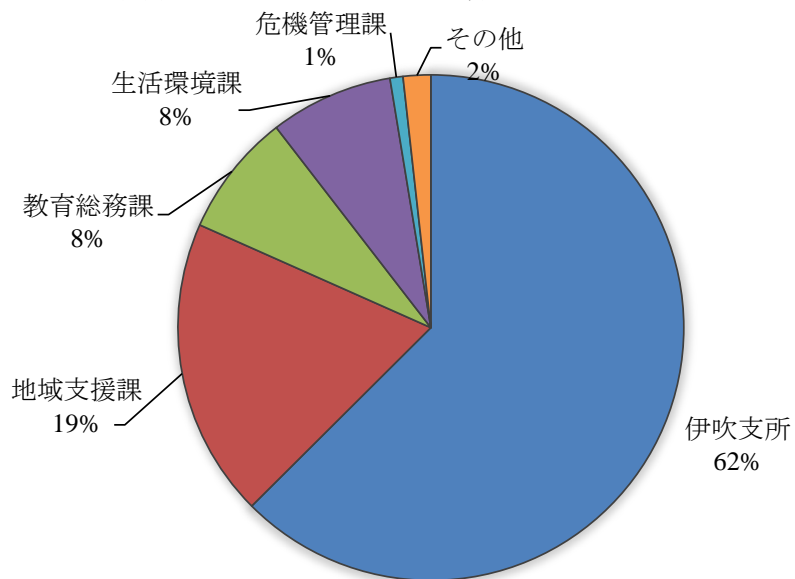
- 軽油

- 2018 年度における温室効果ガスの排出量は、2013 年度（基準年度）に比べて約 87 ton-CO₂ 増加（13.9%増加）
- 軽油は主に公用車や定期船の燃料に使用されており、定期船「伊吹丸」の燃料使用量の減少が主な削減要因

軽油使用に伴う排出量の推移



所管課ごとの軽油使用に伴う排出量（2018年度）



本実行計画では、2013年度を基準年度として2022年度までに2,346 ton-CO₂、率にして20.1%削減する目標を掲げました。平成30年度の実績値は、電気事業者の電力排出係数の改善により削減目標を達成しましたが、本市のエコオフィス活動の推進による削減効果はマイナス0.6%でした。

今後も地球温暖化の防止にむけて、市有施設の運用改善や設備導入などハード面での取り組みを積極的にかつ計画的に行うとともに、職員への意識啓発等によりさらなる温室効果ガスの削減に努めます。